

フエサロニカ人に達する前書

我等を將來の怒より拯ふ者の來るを待つことを言ふ。

第一章 一パウエル、及びシルアン、及びティモフェイは、書して、神父及び主イエイスハリストスに在るフエサロニカの教會に達す。願はくは恩寵と平安とは、神我等の父及び主イエイスハリストスより爾等に賜はらんことを。二我等は爾等を我が祈禱の中に記憶して、恒に爾等衆の爲に感謝す。三是れ爾等が神我等の父の前に在る神の行、愛の勞、我等の主イエイスハリストスに於ける望の忍耐を、絶えず念ひ、四且神に愛せらるる兄弟よ、爾等の選を知るに因りてなり。五蓋我等の福音は爾等の中に言を以てせしのみならず、乃能を以てし、聖神を以てし、多くの保證を以てせり、爾等自ら、我等が爾等の中に在りて、爾等の爲に如何なる者たりしかを知るが如し。六而して爾等は我等及び主に效ふ者となり、多くの患難の中に、聖神の喜を以て、言を受けて、七凡そマケドニヤ及びアハイヤの中に信する者の爲に模範と爲るに至れり。八蓋主の言は爾等より唯マケドニヤ及びアハイヤに響きしのみならず、乃凡の處に於て爾等が神に於ける信は傳はりて、我等何事をも言ふを要せざるに至れり。九蓋彼等自ら我等の事を述べて、我等が如何に爾等の中に入り、爾等が如何に偶像より神に歸して、生ける眞の神に事へ、一〇天より其子、彼が死より復活せしめしイエイス、

第二章 一兄弟よ、爾等自ら我等が爾の中に入りしことの徒然ならざるを知る、二乃我等は、爾等の知れる如く、先にフィリッピに於て苦を受け、且辱しめられて後、我等の神に頼りて、毅然として、多くの勤勞を以て爾等に神の福音を傳へたり。三蓋我等の勸諭は惑よりするに非ず、邪よりするに非ず、譎よりするに非ず。四乃神は我等を試みて、福音を託するに堪ふる者と爲しし如く、我等に斯く之を言ふ人の喜を取るが如くならず、乃我等の心を試みる神の喜を取るが如し。五蓋爾等の知れるが如く、我等未だ曾て爾等の前に諛の言を出さず、又何の事に於ても貪ることせず、神は證者なり。六我等は人よりする光榮を爾等よりも他人よりも求めず。七我等はハリストスの使徒として、威嚴を示すを得べかりしと雖、爾等の中に溫柔なりしこと、乳母の其子を愛育するが如し。八斯く我等は爾等を憂ひて、第神の福音のみならず、我等の靈をも爾等に與へんことを望めり、蓋爾等是我が至愛の者と爲れり。九兄弟よ、爾等是我等の勞苦と勤勉とを記念す、爾等の中一人をも累はさざらん爲に、我等夜晝工を作して、神の福音を爾等に傳へたり。一〇爾等及び神は證す、我等如何にか聖潔、公義、無玷にして、爾等信する者の中に行ひしを、一一蓋爾等は知る、

如何にか我等は、父が其子に於けるが如く、爾等各人に、二 爾等を其國と光榮とに召しし神に合ひて行はんことを勧め、勵まし、求めしを。一三 故に我等も爾等が我等より聞きし神の言を受けて、人を人の言の如くならず、乃神の言の如く受けしを、神に感謝して息めず、是れ誠に神の言にして、爾等信ずる者の中に力行するなり。一四 蓋兄弟よ、爾等はイウデヤに在るハリストス イイスに於ける神の諸教會に效ふ者と爲れり、爾等も彼等がイウデヤ人より受けし如き苦を、己の同族より受けたればなり。一五 イウデヤ人は主イイスと其諸預言者とを殺し、我等を逐ひ出し、神の悦を取らず、悉くの人に逆ひ、一六 我等が異邦人を訓へて救を得しむるを拒む、是くの如く常に己の罪の量を盈たす、然れども至極の怒は彼等に望めり。一七 兄弟よ、我等暫く面を以てし、心を以てせずして、爾等を離れて、愈切に望みて、爾等の面を見んことを務めたり。一八 故に我等、即我ハワエル、一次、又二次、爾等に至らんと欲したれども、サタナ我等を阻みたり。一九 蓋誰か我等の望、或は喜、或は誇の冕たる。爾等も我等の主イイス ハリストスの前に、其降臨に於て此れなるに非ずや。二〇 蓋爾等は我等の光榮及び喜なり。

第三章 一 故に我等復忍ばずして、獨アフィニに留るを意に定め、

二 我が兄弟、神の役者、ハリストスの福音に於ける我等の同勞者たる、テイモフエイを遣せり、爾等を堅め、爾等の信に於て爾等を慰めん爲、三 一人も此の患難に在りて揺かざらん爲なり、爾等自ら我等が此に定まりたるを知らばなり。四 蓋我等は爾等の中に在りし時、我等が難に遭はんことを預め、爾等に告げたりしが、果して是くの如く成れり、爾等之を知る。五 故に我も復忍ばずして爾等の信を知らん爲に遣せり、恐らくは試誘者爾等を誘ひ、而して我等の勞は徒然ならん。六 今はテイモフエイ爾等より我等に來りて、我等に爾等の信と愛との嘉音を報じ、又爾等が常に懇に我等を念ひ、我等の爾等に於けるが如く、我等を見んと欲するを告げたり、七 故に兄弟よ、我等は我が凡の患難急迫の中に於て、爾等の信に由りて、爾等の爲に慰を得たり、八 蓋爾等主に於て堅く立つに因りて、我等今生く。九 我等は爾等の爲、凡そ我等の神の前に爾等に由りて喜ぶ所の喜の爲に、如何なる感謝を神に歸するを得んか。一〇 夜晝切に禱るは、爾等の面を見、及び爾等が信の足らざる所を補はんことなり。一一 願はくは神我等の父、及び我等の主イイス ハリストスは、親ら我等の途を爾等に向はしめん。一二 願はくは又主は爾等の相互の及び衆人に於ける愛を増し、且満たして、我等が爾等に於ける愛の如くせんことを、一三 爾等の心を聖潔無玷にして、神我等の父の前に、我等の主イイス ハリストスの其衆聖者

と偕に來らん時に、立たしめん爲なり、「アミン」。

第四章 一之を究むるに、兄弟よ、我等ハリストス イイススを以て爾等に求め、爾等に勸む、爾等は既に如何に行ひ、及び神を悦ばしむべきを我等より受け、且此を行ふに由りて、益之に進歩せよ、二爾等は我等が主 イイススに由りて、如何なる誠命を爾等に授けしを知ればなり、三蓋神の旨は爾等の聖潔なり、即爾等が自ら淫行を戒むるに在り、四爾等が各己の器を守るに、聖潔尊貴を以てし、五神を識らざる異邦人の如く、情慾を以てせざるを知るに在り、六又何事に於ても、己の兄弟に對して、法に違ひ、利を貪りて行はざるに在り、蓋主は凡そ此等の爲に報を爲す者なり、我が先に爾等言ひ且證せしが如し。七蓋神の我等を召ししは、汚穢の爲に非ず、乃聖潔の爲なり。八故に拒む者は、人を拒むに非ず、乃我等に其聖神を與へたる神を拒むなり。九兄弟の愛に至りては、我が爾等に書するを要せず、爾等自ら相愛することを神より教へられたればなり、一〇蓋爾等果して是くの如く全マケドニヤに在る諸兄弟に行ふ。一一兄弟よ、我等爾等に勸む、益此を進歩し、且務めて安静を守り、己の事を行ひ、手づから工を作さんことを、我が爾等に戒めしが如し、二三爾等の行が外の人の前に端正にして、亦自ら乏しきことなからん爲なり。二三兄弟よ、寝りし者に至

りては、我爾等が知らざるを欲せず、爾等が望なき他の者の如く哀しまざらん爲なり。一四蓋若し我等イイススの死して復活せしことを信ぜば、則神はイイススに在りて寝りし者をも彼と偕に攜へん。一五蓋我等主の言を以て爾等に語り、我等生きて主の來るまで存する者は、寝りし者に先だたざらん、一六蓋親ら號令と、天使首の聲と、神の菰に伴はれて、天より降らん、而してハリストスに在りて死せし者は先づ復活せん、一七其後我等生きて存する者は、彼等と偕に雲に擧げられて、主を空中に迎へん、一八是くの如くして常に主と偕に居らん。故に爾等此等の言を以て互に慰めよ。

第五章 一兄弟よ、時及び期に至りては、我が爾等に書するを要せず、二蓋爾等自ら、主の日の來らんことを、盜が夜に來るが如きを、明に知るなり。三蓋人が平安無事なりと謂はん時、滅亡は忽彼等に至らん、産苦の妊める婦に於けるが如し、彼等避くるを得ざらん。四然れども兄弟よ、爾等暗に在らずして、其日を盜の如く爾等に及ばしめんざらん。五蓋爾等皆光の子、晝の子なり、我等は夜の者、暗の者に非ず。六故に我等他人の如く寝ぬ可からず、乃徹醒謹慎すべし。七蓋寝ぬる者は夜に寝ね、酔ふ者は夜に酔ふなり。八我等は晝の子なるに因りて、信と愛との甲、及び救の望の胃を衣て、謹慎すべし。九蓋神は我等を怒の爲に定めしに非ず、

乃 救を得しめん爲なり、我等の主イエスハリストスに由りてなり、一〇 彼は我等の爲に死せり、我等儆醒するも、寝ぬるも、彼と偕に生さん爲なり。一一 故に爾等互に慰め互に徳を建てよ、爾等已に行ふ所の如し。一二 兄弟よ、我等爾等に求む、爾等の中に勞し、主に在りて爾等を治め、爾等を訓ふる者を認めて、一三 彼等の工の爲に彼等を尊びて、篤く愛せよ。爾等互に睦しくせよ。一四 兄弟よ、我等爾等に勸む、妄行なる者を儆め、氣餒たる者を慰め、弱き者を扶け、衆人を待つに寛忍を以てせよ。一五 慎みて惡を以て惡に報ゆる母れ、常に互に善を追ひ、又之を衆人に及ぼせ。一六 常に喜べ。一七 輟めずして祈れ。一八 凡の事感謝せよ、蓋是れ爾等の爲にハリストスイエスに頼る神の旨なり。一九 神を熄す母れ。二〇 預言を藐んずる母れ、二一 凡の事を察して、善き者を執れ。二二 悉くの惡の類に離れよ。二三 願はくは平安の神は親ら爾等を全く聖にし、爾等の神と靈と體とは全うし護られて、我等の主イエスハリストスの降臨の時に疵なからん。二四 爾等を召す者は誠信なる者にして、彼は之を行はん。二五 兄弟よ、我等の爲に祈れ。二六 聖なる接吻を以て悉くの兄弟の安を問へ。二七 我主を以て爾等に此の書を悉くの聖兄弟の前に讀まんことを誓はしむ。二八 願はくは我等の主イエスハリストスの恩寵は爾等と偕に在らんことを、「アミン」。

フェサロニカ人に達する後書

第一章 一 パワエル及びシルアン、及びティモフェイは、書して、神我等の父及び主イエスハリストスに在るフェサロニカの教會に達す。二 願はくは恩寵と平安とは、神我等の父及び主イエスハリストスより爾等に賜はらんことを。三 兄弟よ、我等恒に爾等の爲に神に感謝すべし、是れ宜しきに合ふなり。蓋爾等の信は大に長じ、爾等衆の中に各人相互の愛は彌増す、四 我自ら爾等を以て神の諸教會の中に誇るに至れり、蓋爾等は忍耐と信を以て、凡の窘逐患難を受くるなり。五 此れ爾等が苦みて待つ所の神の國を得しめん爲に、神の義なる審判あらんことの明なる徴なり。六 蓋爾等を苦しむる者に、苦を以て報い、七 爾等苦しめらるる者に、我等と偕に安悦を以て報ゆるは、神の前に義なるなり、是れ主イエスの天より、其能力の天使等と偕に、現るる時に在り。八 彼は火燄を以て、神を識らざる者、及び我等の主イエスハリストスの福音に服はざる者に報を與ふ、九 彼等は主の顔及び其大能の光榮より永遠の滅の罰を受けん、一〇 即彼が來りて、其日に諸聖者の中に光榮を得、衆信者の中に威嚴を顯さん時に在り、爾等が我等の證を信ぜしが如し。一一 此に由りて我等恒に爾等の爲に祈禱して、我等の神が爾等を召に任ふる者と爲し、且大能を以て凡の

仁愛の善旨と信の功とを成就せんことを求む、一二 我等の主イエスハリストスの名は爾等の中に、爾等も彼の中に於て、我等の神及び主イエスハリストスの恩寵に依りて、榮せられん爲なり。

第二章 一 兄弟よ、我等の主イエスハリストスの臨むこと、及び我等が彼に集ることに就きては、我爾等に求む、二 爾等或は神に由り、或は言に由り、或は我等の遺れるに似たる書に由りて、ハリストスの日今已に至ると云ふを以て、輒く心を動かし、且怖るるなからんことを。三 人何の法を以ても、爾等を惑はすべからず、蓋反離は先に來らず、且不法の人、淪亡の子、四 背逆の者、自ら高くして、凡そ神或は拜まるる者と稱する者に越え、甚しきに至りては、神の如く神殿に坐し、己を示して神と爲す者現れずば、其日至らざらん。五 我が尚爾等の中に在りし時、此を爾等に言ひしを、爾等記憶せざるか。六 爾等今彼を、むる者を知る、彼が其時に至りて現れん爲なり。七 蓋不法の秘密は己に行はる、唯今に於て之をむる者が、中間より除かるるに至るまでは、成就する能はず。八 其時に不法の者現れん、主イエスは己の口の氣を以て彼を殺し、己の降臨の現を以て廢せん。九 其時來るはサタナの行爲に循ひて、凡の偽の異能と、奇徴と、奇蹟とを以てせん、一〇 且凡の不義の詭譎を以て亡ぶる者の中に在らん、蓋彼等は己の救の爲に眞實

の愛を受けざりき。一 是の故に神は彼等に迷謬の行爲を遣して、
彼等が誑を信ずるを致さん、二 凡そ眞實を信ぜずして、不義を悦
べる者の罪の定められん爲なり。三 然れども主に愛せらるる兄弟
よ、我等は爾の爲に恒に神に感謝すべし、蓋神は始より、神の成聖
と眞實を信ずる信とに因りて、爾等の救の爲に簡び、四 我等の
福音を以て、爾等を此に召せり、我が主イエス ハリストスの光榮
を得ん爲なり。一五 兄弟よ、故に爾等堅く立ちて、我等の言、或
は書を以て、教へられし所の傳を守れ。一六 願はくは我が主イエス
ス ハリストス及び神我等の父、我等を愛して、其恩寵に由りて、永遠
の慰と善き望とを賜ひし者は、一七 親ら爾等の心を慰めて、
爾等を凡の善言善行に堅めん。

第三章 一 終に言ふ、兄弟よ、我等の爲に祈禱せよ、主の言の疾く廣
まりて、榮せらるること、爾等の中に於けるが如く、二 且我等が非
理及び悪なる人より救はれん爲なり、蓋人皆信あるには非ず。三 然
れども主は信なり、彼は爾等を堅めて、凶悪者より護らん。四 我等主
に頼りて爾等の事を確信す、爾等が我等の命ずる所を行ひ、且行
はんことを。五 願はくは主は爾等の心を神の愛、及びハリストスの
忍耐に導かん。六 兄弟よ、我等は、我が主イエス ハリストスの名
を以て、爾等に命ず、凡そ妄に行ひて、我等より受けし所の傳に

循はざる兄弟より遠ざかれ。七 蓋爾等自ら如何に我等に效ふべき
を知る、我等は爾等の中に在りて妄なる事を爲さざりき、八 亦何人
にも徒食せざりき、乃勞と苦とを以て、夜書業を作せり、爾等
の中に一人をも累はさざらん爲なり、九 此れ我等に權なきが故に非
ず、乃 己を模範として爾等に與へて、我等に效はしめん爲なり。
一〇 蓋我等爾等の中に在りし時、此を以て爾等に命ぜり、人若し業
を作すことを欲せずば、食ふ可からずと。一一 今聞くに、爾等の中
或者は妄なる事を行ひ、何事をも爲さず、惟餘事を務む。一二 此く
の如き者に我等は、我が主イエス ハリストスを以て、命じ且勸む、
安静に業を作して、己の餅を食はんことを。一三 兄弟よ、爾等は善
を行ひて倦む勿れ。一四 若し此の書に言ふ所の我等の言を聴かざ
る者あらば、彼を誌して、與に交る勿れ、彼を辱しめん爲なり、一
五 然れども彼を敵の如くする勿れ、乃 兄弟の如く訓へよ。一六 願は
くは平安の主親ら恒に凡の事に於て爾等に平安を賜はん。願はく
は主は爾等衆と侶に在らん。一七 我パウエル手づから爾等の安を
問ふ、書毎に之を以て誌と爲す、我が書する所此くの如し、一八 願
はくは我等の主イエス ハリストスの恩寵は爾等衆と偕に在ら
んことを、「アミン」。